

第128回 記者懇談会実施概要

- 1 日時 2019年5月27日(月) 15:00～16:45
2 場所 関西大学梅田キャンパス 4階 KANDAI Me RISE ラボ (多目的室)
3 内容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～15:30)

- ・一井 康二 教授、奥村 与志弘 准教授 (社会安全学部)
共同発表テーマ「灯油巡回販売サービス事業者の防災・減災事業展開について」

(2) 学内状況説明 (15:30～16:30)

- ① 本格的なAI人材を創出！正規教育課程に「データサイエンティスト育成プログラム」を導入 資料1
- ② 「気がるに健康チェック」サービス提供中の医療ITベンチャーとの共同研究拠点を開設 資料2
- ③ 「世界文化遺産候補“百舌鳥・古市古墳群”×関西大学」シンポジウムを開催 資料3
- ④ 大手書店連携・オーダーメイド選書で“あなたの1冊”をマッチング 資料4
- ⑤ 国立環境研究所及び国立循環器病研究センターと、環境と健康の連環にかかる連携協力協定を締結 資料5
- ⑥ SDGsの達成を推進！関西大学SDGsフォーラムを開催 資料6
- ⑦ 法政・明治大学共催 特別展「ボアソナードとその教え子たち in 関西大学」を開催 資料7
- ⑧ 若手起業家が実体験を語るイベント「イノベーターズトーク Vol. 13」を開催 資料8
- ⑨ 2019年度教育後援会総会・学部別教育懇談会に保護者約6,000人が参加 (開催報告) 資料9
- ⑩ 大学ランキング2020 (朝日新聞出版) から見る本学の特長 資料10
- ⑪ 2018年度学生生活実態調査報告書を刊行 資料11

(3) 学長による話題提供「芝井の目」(16:30～16:35)

テーマ:「高等教育の無償化」について

資料12

(4) 意見交換・質疑応答 (16:35～16:45)

学長はじめ執行部に対し、テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。

4 大学側出席者

芝井敬司学長、良永康平副学長、高作正博学長補佐、一井康二社会安全学部教授、奥村与志弘社会安全学部准教授、田實佳郎システム理工学部長・教授、布施陽太郎 (理工学研究科博士後期課程1年次生)、葛谷明紀化学生命工学部教授、立仙和彦総合企画室次長、増井勝也学長室次長、植田光雄学長課長、依藤康正広報課長 他

5 参考資料

- (1) 地域連携コンセプト冊子「地域で活動する若い力」
- (2) イノベーション創生センター「NEWS LETTER」vol. 4
- (3) 2019年度年史資料展示室企画展「関西大学の学生運動」チラシ
- (4) 梅田キャンパス『『EI (感情的知性) boost』キックオフセミナー』チラシ
- (5) 関大生の活躍 (6) 行事予定表 (6月～7月)

以上

【次回 (第129回) 記者懇談会開催予定】

日時: 2019年7月31日(水) 場所: 梅田キャンパス4階 KANDAI Me RISE ラボ (多目的室)
備考: 当日に説明・情報提供を希望する事項がございましたら事前にお知らせください。
TEL: 06-6368-0201 E-Mail: kouhou@ml.kandai.jp

灯油巡回販売サービス事業者の防災・減災事業展開についての共同研究

社会安全学部 教授 一井 康二

社会安全学部 准教授 奥村 与志弘

【概要】

「学の実化」という本学の教育理念が示すように、防災に関する学術研究も社会実装されて初めて実際の防災・減災に貢献できる。本研究では、社会実装の一つとしての防災・減災事業展開をめざして、灯油巡回販売サービス事業者（シューワ株式会社）と共同研究を行った。

研究課題は、「空調機器メンテナンス等に伴う戸建て住宅訪問時の耐震診断および家具固定等の防災サービスの可能性と災害軽減効果の評価に関する検討」（一井ゼミ担当）と「南海トラフ巨大地震時の避難所環境改善に向けた灯油巡回販売サービス事業者の可能性」（奥村ゼミ担当）である。前者は、シューワ株式会社の関連企業：シューワライフサポートの業務にエアコンクリーニング・エアコン取付け、ハウスクリーニングがあることに着目し、エアコンクリーニングのための戸建て住宅訪問時に、家具の転倒防止金具の取り付け等のサービスを新規事業として実施することが可能かどうかを検討するものである。後者は、避難所での燃料必要量の算定をもとに、実際に燃料を備蓄して災害発生時の燃料供給サービスや避難所への燃料供給を実施している企業の可能性を検討するものである。

これまで、わずか1年余りの研究期間であったが、簡単にまとめると、以下のような研究成果を得ることができた。

- ・家具固定サービスの具体的な事業展開における課題の整理を行い、家具固定サービスの価格設定等の課題についてはアンケート調査を実施した。また、戸建て住宅訪問時の準備プロセスを利用した避難所の案内を含むチラシの作成を提案した。今後、試験的にチラシ配布と家具固定サービスの試行の実施を検討している。
- ・南海トラフ巨大地震の発災時にシューワ株式会社が燃料供給の観点から貢献できるインパクトの大きさと、その限界・課題を、定量的に試算することができた。

本共同研究は、2019年6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害、8月の台風21号、9月の北海道停電などの災害を踏まえて、研究内容を拡大し、2019年度も実施予定である。

【プロフィール】

一井康二：京都大学大学院修了後、運輸省入省。港湾技術研究所・研究官、広島大学准教授を経て、2017年に本学着任。耐震設計や耐震診断が専門。土木学会技術開発賞受賞など。

奥村与志弘：京都大学大学院修了後、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター専任研究員。京都大学大学院助教を経て、2017年に本学着任。総合防災・減災、津波工学、地震工学が専門。

以 上